

奈良大学情報処理センター年報 第5号記念号の発刊にあたって

センター所長 今泉重夫

奈良大学情報処理センター（以下、センターという）は、平成6年4月をもちまして、満7年目を迎え、同センター年報の刊行も5号を迎えることになりました。当センターは、昭和63年に山陵キャンパスへの移転および社会学部の増設とともに開設されました。センター開設と共に、汎用大型コンピュータ（ACOS 430/70）が導入され、その後、ワーク・ステーションの設置、ホスト機の強化、教育研究支援統合ネットワーク・システムの導入など着実に発展して来ました。また、平成4年度には、スーパーコンピュータ（Convex C3420）＋グラフィックス端末（Silicon Graphics, IRIS/Indigo XS24）＋エンジニアリング・ワークステーション（Sun, ipx×3台）＋ワークステーション（Sun, ipc×35台）などのネットワーク化を行いました。このように開設以来、関係各位の御協力により情報環境が、着実に整備されて、来たるべき高度情報化社会への対応がはかられてまいりました。

センター開設以来、利用者、利用実績ともに順調に増加しています。平成5年度には、スーパーコンピュータ、汎用機によるセッション開設件数は、8993件で、この処理時間は8428時間強であり、ワーク・ステーション利用は6600件で、利用時間は25963時間余でした。また、学外大型計算機センター、学術情報センターの利用は320件で、利用時間は134時間余であり、利用件数、利用時間ともに開設年度の数倍にもなっています。これらの利用内容については、教育利用と研究利用が、大体半分づつであると推定しています。

これまで、学内における学術研究および教育を支える重要な基盤としての役割を果たしてまいりました。この重要性は今後とも変わることはありませんし、ネットワークが発達すればするほど、スーパーコンピュータ、学術情報データベース、情報処理サービスなど利用価値が増大し、その威力を発揮することになります。センターでは、出来るだけ多くの教職員、学生の皆様に、どのような良いサービスを提供して行けるのかを模索しています。

利用実績の増大と共に、研究および教育業績も着実に増加しています。学術雑誌、紀要などを始め、センター年報の質、量ともに増加して来ました。センター年報も本年で、発刊して5号になりました。これを機会に第5号記念号を発刊しまして、内外のご意見を賜わりたいと存じます。このセンター年報が、これまでの足跡を伝えるものだけでなく、これからのセンターのあるべき姿を考えて行くための資料となることを希望いたします。

これを機会にセンター教職員一同気持を新たにし、センターの基礎をきずいていただいた方々に感謝の意を表わすとともに、今後ともセンターを一層利用していただきますようお願い申し上げます。

平成6年8月